

# 事業報告

平成 29 年度

社会福祉法人原町成年寮

サザンクロスかつしか

## 1, 支援方針

『利用者一人一人の幸せに貢献する』

『利用者を一人の人間として尊重する』

『利用者を知り、QOL（生活の質）を高める』

幸せに関する視点は、支援者に浸透している反面、人権意識は、まだまだ改善の余地があると感じている。なかなか自分の意思を伝えられない利用者に対して、代弁者たる支援者の育てる必要がある。内部研修を通じて、気づきの機会を作って行きたい。

## 2, 支援目標

「利用者が幸せで、笑顔いっぱいになる個別支援計画を作る」

～終末期、ライフステージを意識した個別支援計画を考える～

個別支援計画を中心据えた支援を実施するために、ミーティング、会議、研修を充実させた一方で、時間の確保や参加する体制を作ることが難しかった。基本的な方針や、支援目標はクリアでき始めているので、来年度は、支援員全員と一緒に、今後の方針や行動指針を作って行きたい。高齢期の支援は、後手に回っているので、予防的かつ積極的な対策を考えて行きたい。

## 3, 今年度取り組む課題

### (1) 高齢化対策

#### ① 高齢化対策及び消防設備への対応として「東立石生活寮」移転を検討

高齢化に配慮した（仮）新東立石生活寮の開設が、平成30年度9月に決まった。

#### ② 高齢利用者の支援の在り方模索

1) 利用者ひとりひとりのそれまでの人生を踏まえた上で、現在のライフステージに相応しい支援を考える。

2) 高齢利用者の地域生活を支えるための課題を整理し、東立石生活寮移転に伴う高齢利用者のためのグループホーム開設に備える。

③ （仮称）高齢化対策委員会を設置した上で、下記を検討し、3月に事業会議に報告書及び提言を提出する。

<考えられる課題> 1) 健康（病気と怪我）のリスクの把握とその対応  
2) 精神面や身体面の急激な変化（認知症も含む）への対応  
3) 日中活動の見直し  
4) 相応しい住環境の検討  
5) 他サービスの活用とケアマネジメント  
6) 高齢期を迎える前の壮年期および中年期における、将来を見据えた支援のあり方

<先見事例の見学> 社会福祉法人侑愛会 侑愛荘（北海道北斗市）  
社会福祉法人かりがね福祉会 ライフステージかりがね（長野県上田市）  
特定非営利活動法人このゆびと一まれ（富山県富山市）

④ ダウン症の早期のアルツハイマーに対応するために、ダウン症利用者の頭部CTの実施。高齢化対策委員会を設置し、高齢化対策及び高齢化対応グループホーム開設に向けて、検討を始めている。早期アルツハイマー対応のため、頭部CT、MRIの実施を検討したが、家庭の協力が得られず、全員の実施はできなかった。見学に関しては、侑愛荘の見学のみ実施した。このゆびと一まれに関しては、来年度、再度の見学の実施を計画している。

### (2) 個別支援の充実～自ら課題を見つけ、解決できるチーム作り～

#### ① ミーティング

1) 平日毎朝11時より、各チーム合同で、宿直者による申し送りを援助センターで行い、情報の共有に努める。可能限り、所長が同席し、スーパーバイズを行い、できるだけ問題を早く解決する。

2) 各チームのミーティングは、午後に行い、チームの引き継ぎの他、午前中の申し送りを確認する。

#### ② 新たなリーダー・サブリーダーの指名

- 1) 東立石チーム：サブリーダー加藤
- 2) ゆるりチーム：サブリーダー宮崎
- 3) なぎさチーム：リーダー川瀬
- 4) みさきチーム：サブリーダー三瀨

ミーティングの実施は、午前中に通院が重なることが多く、参加者が集まらず、たびたび、中止を余儀なくされた。来年度は、夜勤化の方針の中、明けの勤務時間が不足が予想されているので、実施の効果と支援体制維持のバランスを考えながら、あり方を考えていく。サブリーダーの指名は、各人の自覚が生まれ、支援にプラスに作用した。チームとしての支援力は、徐々に上がって来ていると感じている。

### ③ 会議の効率化

#### 1) 全体会議

全体会議の実施は、最小限にとどめ、各チームの支援会議の時間の確保に努める。年4回実施。連絡事項は、ミーティングとサービス管理責任者会議から、各チームに申し送りをする。

<全体会議の予定>

4月27日(木)	全体会議／内部監査	10:00～17:00
6月22日(木)	全体会議／内部研修(虐待防止)	13:00～14:30
8月24日(木)	全体会議／内部研修(権利擁護)	13:00～14:30
9月28日(木)	中間モニタリング検討日	各チーム調整
10月26日(木)	全体会議／内部監査	10:00～17:00
12月21日(木)	総括・個別支援計画検討日①	各チーム調整
1月25日(木)	総括・個別支援計画検討日②	各チーム調整
2月13日(木)	総括・個別支援計画検討日③	各チーム調整
3月22日(木)	全体会議(サザンクロス事業計画)	13:00～14:00

内部研修の時間の確保と個別支援計画の時間の確保の兼ね合いが難しく、どちらも時間が足りなくなりました。時間を取れば取るほど、支援時間の減少にもつながってしまうので、効果を考えながら、バランスを取って行きたい。

#### 2) サービス管理責任者会議

各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会を兼ねる。所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月1回、第2火曜日実施。

4月11日(火)	13:30～14:30	10月10日(火)	13:30～14:30
5月9日(火)	13:30～14:30	11月14日(木)	13:30～14:30
6月13日(火)	13:30～14:30	12月12日(木)	13:30～14:30
7月11日(火)	13:30～14:30	1月16日(木)	13:30～14:30
8月8日(火)	13:30～14:30	2月6日(木)	13:30～14:30
9月12日(木)	13:30～14:30	3月13日(木)	13:30～14:30

計画通りに実施できた。ケースの事故報告の確認の場になっており、有益な時間になった。

#### 3) 支援会議

各支援チームで、月1～2回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。

周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

事業所長も参加する方針であったが、日程調整が難しく、全部のグループにコンスタントに参加することができなかった。現場に入れる時間が限られてしまうため、今後は、スーパービジョンの方法も含め、管理者の力量が求められる。

### (3) 預かり金の管理システムの充実及び構築

- ① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理
- ② 個別会計管理ケースの施錠化
- ③ チーム内監査の実施(年2回)
- ④ 内部監査の実施(年2回)
- ⑤ より安全な預り金管理の模索

適正に預かり金を管理することができた。しかし、会計処理等を極端に苦手に行っている支援員も、若干名見られるので、育成方法も含め、課題が残った。会計に関しても、OJTの導入を検討したい。

#### 4. 研修

##### (1) 内部研修

- ① 虐待防止 6/22 (木) 13:00～14:30
- ② 権利擁護 8/24 (木) 13:00～14:30

##### (2) 外部研修※詳細別紙参照

- ① SDS (Self Development System 自己啓発援助制度) を採用し、自発的な研修参加。
- ② サービス管理責任者会議からの指名。
- ③ 計画的な施設見学

##### (3) 資格取得研修

- ① 移動支援従事者
- ② 行動援護従事者

##### (4) OJT 研修

新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT 担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施する。

研修については、概ね、計画通り実施することができた。